

71 神はわが王

1. 神はわが王 合唱

神はわが王
いにしえより
すべての救いの業をこの地でなさる方
神はわが王

2. アリア・テノールとコラール

テノール
わたしは今や80歳、なぜこんなに重荷を背負わなければならぬのか。
わたしは望む、私の町で父と母の墓のそばで死ぬことを。
ソプラノ
わたしはこの世でわたしをよりたかめようとして、
艱難辛苦を乗り越え 歳月を乗り越えてきたように、
罪と恥から私をまもるために 忍耐を重ね
誇らしく白髪とならん。

3. 四重唱 ソプラノ、アルト、テノール、バス
あなたの老年が若き日のように老いていけるように。
神はすべてにあなたと共にいます。

4. アリア・バス

昼も夜もあなたのもの
アナタは太陽と星を造り、 治められる。
その確かな道は定められ、
全地にそれぞれの境を定められた。
昼も夜もあなたのもの

5. アリア・アルト

偉大な力 われらの国を守りたもう たとえ戦争の嵐がおこり
王冠また王笏が揺らいでも あなたは大いなる力によって
救いをなしたもう 聖なる力によって。

6. 合唱

あなたの鳩の魂を敵に与えないでください。

7. 合唱

新しい治世に それぞれの道で祝福の王冠あれ。
安心、平和、福祉に常に満たされ、
幸福、救済がなされ、治世が守られるように。
新しい治世に喜び、救い、偉大な勝利があらんことを。
日々新たにヨゼフ王が喜ばれんことを。
国中のすべての町や村にも、
喜び、救い、偉大な勝利があらんことを。

初演 1708年2月、市参事会員就任式

はじめに

バッハは1702年、22才の12月に、ミュールハウゼン市ブラウジス教会オルガニストの任命を受けた。ところが、その三日後に400軒が被災する大火が起こり、しかも市長宅のモルタル塗りの屋根から出火した。三つある教会の二つも被害を受けた。その渦中にバッハは結婚したばかりの妻と引っ越してきた。大変な年明けとなり、2月4日に市の新参事会員の就任式が行われた。このために「神はわが王」BWV 71を作曲、演奏した。初仕事でした。

第1曲テーマ「神はわが王」 神の意を受けた神聖ローマ帝国直轄自由都市 ミュールハウゼンの行政を司る 46人の参事の中の12人と2人の市長(1人は副市長)が一年任期の交替で就任する。その就任式の祝祭カンタータです。大火の後で復興計画もままならぬこの時に、就任式は延期にはせず、被災しなかった3番目の教会で行われました。

第2曲 わたしは今や80才

ダビデは40才になった息子アブサロムの裏切りにあい、亡命生活をしていた頃、ダビデを匿ってくれた富裕なバルジライに助けられた。やがてアブサロムが戦死し、エルサレムに帰還する時が来た。ダビデは大変世話になったバルジライを連れて帰り一緒に住もうと言った。しかし、バルシライはわたしはもう80歳になります。父母の墓のそばで暮らしたいのです。自分の代わりに息子をを連れ行ってくださいと言って固辞した。

バッハはバルシライの言葉「わたしはもう80歳になります」を、そのままミュールハウゼン市の火災に対処した、高齢の参事官の苦労に感謝を表しています。

祝祭は壮大な曲によって活気に満ちた。楽器が、3トランペット ティンパニ 2フルート 3弦 2オーボエ、ファゴット 2フルートとチェロ、オルガン それに4声部の合唱。これほど大規模なバッハの祝祭カンタータはほかにないそうです。

最後の第7曲 合唱

「新しい治世に それぞれの道で祝福の王冠あれ。安心、平和、福祉に常に満たされ、幸福、救済がなされ、治世が守られるように。新しい治世に 喜び、救い、偉大な勝利がありますように。国中の町や村にも、日々新たにヨゼフ王※が喜ばれんことを。」

※1 詩編74:12

※2 サムエル下 19:35,37

※3 創世記21:22 そのころ、アビメレクとその軍隊の長ピコルはアブラハムに言った。「神は、あなたが何をなさっても、あなたと共におられます。

あなたは、太陽と光を放つ物を備えられました。

昼はあなたのもの、そして夜もあなたのものです。あなたは地の境をことごとく定められました。夏と冬を造られたのもあなたです。

※6 詩編74:19

あなたの鳩の魂を獣に渡さないでください。

※ヨゼフ王 神聖ローマ帝国皇帝ヨーゼフ一世